

気体軸受研究会（第3種，12年度，主査 矢部 寛）：気体軸受研究会は，気体潤滑技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気体軸受に興味をもっている者，気軽に何となく参加してみたい者が集って議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数 54 名，平均出席者数はオブザーバを含め毎回 30 名程度で，京都を開催場所とし，年4回の研究会を開催した．研究会での講演は次のとおりである．

第1回研究会（平成12年6月3日 於：くに荘）①スパイラル溝ジャーナル軸受の回転精度特性（京都大 矢部 寛），②動圧ガスシールのオフデザイン試験（日本ピラー工業 布施敏彦），③真空機器への静圧気体軸受の適用の試み（東京理科大 吉本成香）

第2回研究会（平成12年7月29日 於：京大会館）①動圧フォイル軸受の試作（関西大 塩田哲男），②熱ほふく流を利用したナノメータ浮上メカニズム（鳥取大 福井茂寿），③ウエハ両面研削盤用エアスピンドル（光洋機械工業 上田浩一）

第3回研究会（平成12年9月23日 於：京大会館）①福祉機械（室内移動装置）への気体軸受の応用（滋賀県立大 田中勝之），②薄板搬送における超音波振動による摩擦低減（和歌山工業高専 谷口邁），③動圧フォイル軸受の実験的研究（東北学院大 十合晋一）

第4回研究会（平成12年12月16日 於：京大）①オイレスエアベアリングの開発（オイレス工業 富田博嗣），②軸受面に設けられた導通孔での気体の慣性効果の検討（福井大 川端信義），③パターンメディア上の浮動ヘッドスライダの薄膜気体潤滑特性（関西大 多川則男）

気体軸受研究会は第3種研究会の設置が認められた昭和54年以来22年 通算105回の長きにわたって開催を続けてきたが，諸般の事情で平成12年度で幕をおろすことになった．各位のご協力とご厚誼に厚く感謝している．

平成13年度からは，気体軸受研究会を発展的に引き継ぐ形で，「”超”を目指す軸受技術研究会」〔主査：森 淳暢（関西大）〕が，大阪を主会場にして発足する運びとなっている．温かく気軽に，そして実りある情報に接することができるような会運営をされることと思う．気体軸受研究会と同様，多数のご参加を希望している．